

多面版SDGsローカル指標を 用いた活動量評価にかかる試行 調査等と今後の展望について

令和4年3月16日

農林水産省

目 次

1	令和3年度の検討概要について	1
2	活動量評価について	2
	（1）多面版SDGsローカル指標による活動量評価（全国の傾向）	2
	（2）多面版SDGsローカル指標による活動量評価（都道府県の特徴）	3
3	活動量評価にかかる試行調査等について	4
	（1）試行調査（市）	5
	（2）補足調査（活動組織）	9
	（3）補足調査（大学生）	11
4	指標の把握方法	15
5	まとめ	16

1 令和3年度の検討概要について

- 令和2年度において、SDGsの目標・ターゲットの達成に貢献する本交付金の活動内容と指標を「多面版SDGsローカル指標」として整理した。
- 令和3年度においては、（１）毎年報告される実績報告を基に、同指標の値を全国や都道府県等を単位とした「活動量評価」として整理した上で、同指標の活用方法や実績報告等により定期的に把握すべき内容を検討するとともに、（２）「活動量評価」にかかる試行調査を実施し、今後の普及方法等を検討する。
- 今回、2市で行った試行調査結果を報告するとともに、補足的に行った調査結果も併せて報告した上で、今後の進め方（案）を示す。

活動量評価

第1回委員会にて報告

- ・ 多面版SDGsローカル指標を用いて、全国や都道府県を単位とした取組状況（SDGsへの貢献状況）について、「カバー率」と「取組組織の割合」の2つの評価軸を通して評価。
- ・ 平成27年度（Ⅰ期対策2年目）、平成30年度（Ⅰ期対策5年目）及び令和2年度（Ⅱ期対策2年目）の3つの時点における取組状況を整理し、変化を把握。

表 取組状況を評価する際の評価軸

カバー率 (取組面積割合)	全国の農振農用地面積に占める当該活動を行っている組織の認定農用地の面積割合 例)実施状況の把握:水質保全に取り組む組織数 カバー率 : Σ 取り組む組織の認定農用地 $\div$ 全国の農振農用地面積
取組組織の割合	当該活動を行っている組織数の割合 例)実施状況の把握 : 水質保全に取り組む組織数 取組組織の割合 : 水質保全に取り組む組織数 $\div$ 全組織数

活動量評価にかかる試行調査等

第2回委員会にて報告

- ・ 2市（X市、Y市）を対象に、多面版SDGsローカル指標や活動量評価にかかる試行調査を実施。

補足調査

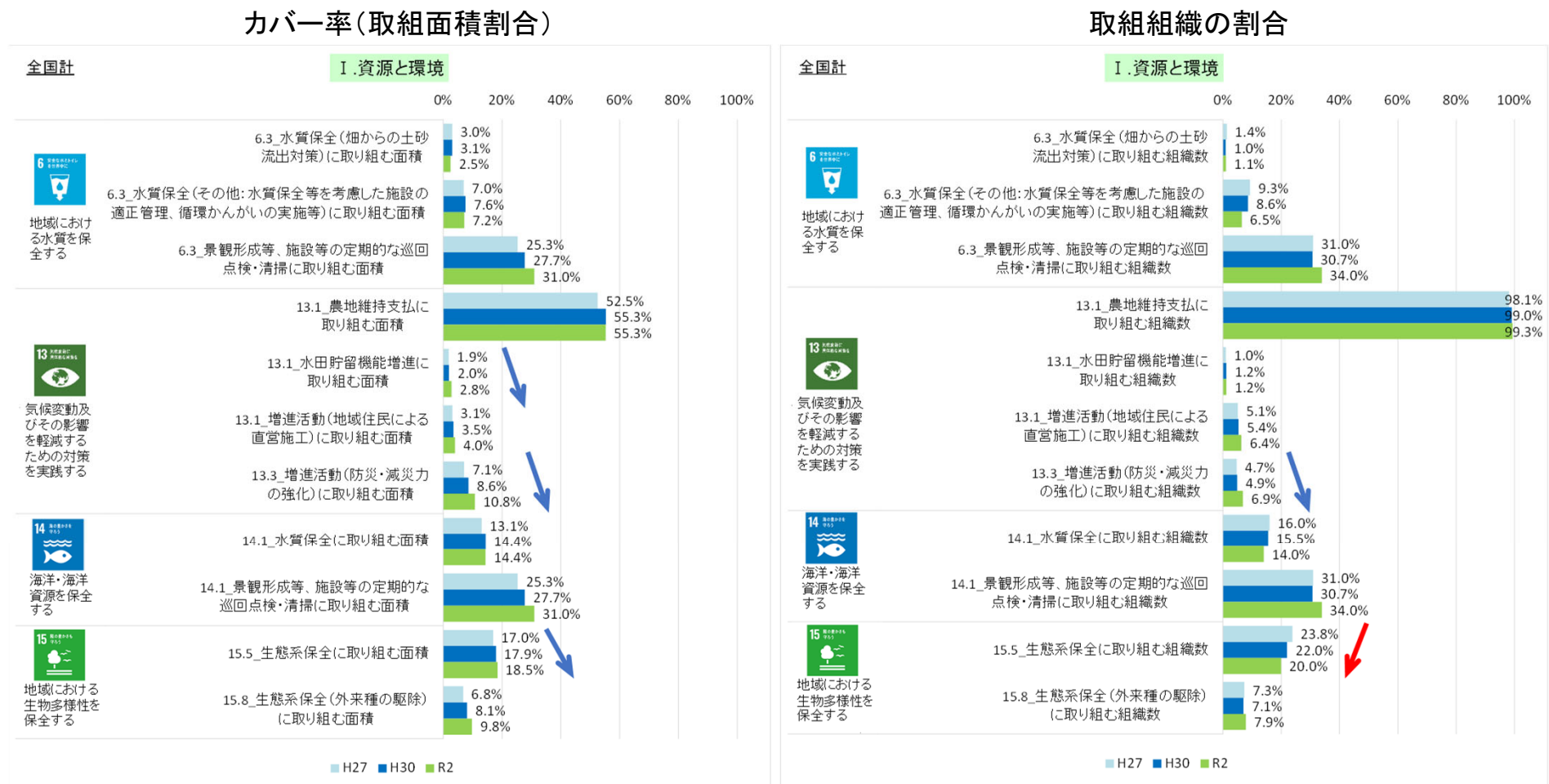
- ・ 活動組織（両市から各2組織、計4組織）を対象に、当該指標の活用方法等を調査。
- ・ さらに、若い世代（大学生）を対象に、地域の共同活動がSDGsへ貢献していることを知った際に共同活動に関心を持つかどうか等を調査。

2 活動量評価について

(1) 多面版SDGsローカル指標による活動量評価（全国の傾向）

- 多面版SDGsローカル指標を用いて、実績報告を基に平成27年度、平成30年度及び令和2年度の全国の取組状況（SDGsへの貢献度）を活動量評価として整理*した。
- 取組状況は目標、指標により異なり、地域によっても異なるが、多面版SDGsローカル指標を活用することにより、取組の変化を見える化することが可能である。

図 活動量評価(全国の傾向)(一部抜粋)

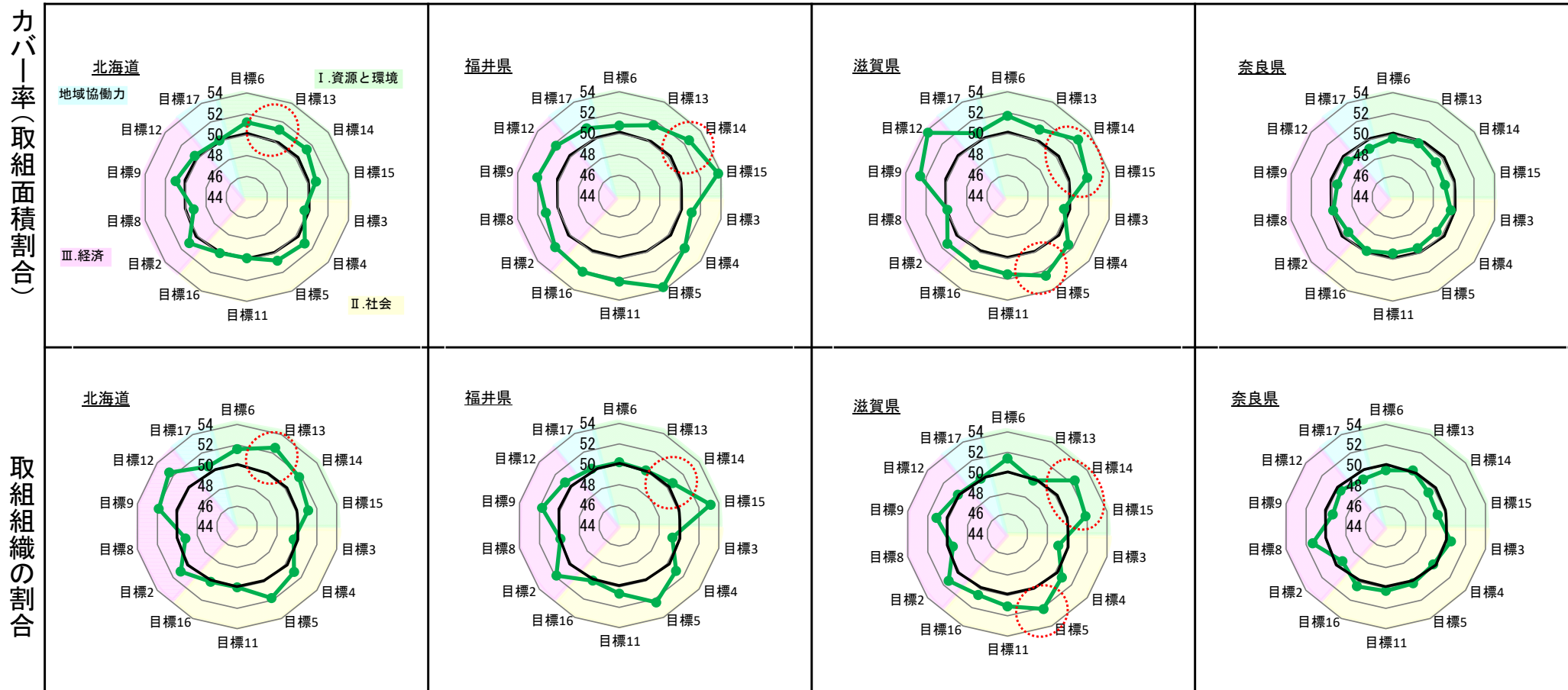


* 活動量を整理する際は、本交付金を実施する上で毎年定期的に報告される実績報告を用いているため、特別な調査を必要とせず、簡単かつ継続的に評価することが可能

(2) 多面版SDGsローカル指標による活動量評価（都道府県の特徴）

- 多面版SDGsローカル指標を用いて、実績報告を基に令和2年度の各都道府県の実績状況（SDGsへの貢献度）を活動量評価として整理*した。
- 取組状況を他県等と比較することにより、当該地域の取組の特徴、経年変化を客観的にとらえることが可能である。都道府県にとっては、県内ブロックや市町村単位での分析も可能である。
- 地域の実情に応じた目標設定や達成度の把握に役立てることができるため、都道府県、市町村の推進施策の立案及び評価ツールとして活用が可能である。

図 各都道府県の目標別偏差値(令和2年度)



注: グラフの値は、都道府県別に各指標の値を整理し、その偏差値を目標毎に平均した値、黒い太線は偏差値50を示している。

* 活動量を整理する際は、本交付金を実施する上で毎年定期的に報告される実績報告を用いているため、特別な調査を必要とせず、簡単かつ継続的に評価することが可能

3 活動量評価にかかる試行調査等について

- 多面版SDGsローカル指標を用いた活動量評価について、多面的機能支払交付金の活動を現場で支える行政（市）がどのように評価するか調査した。
- 今回の試行調査は、本交付金のSDGsへの貢献が平均的であり、ある程度の活動規模がある市を対象として選定した。
- 試行調査においては、活動量評価の活用方法等について聞き取るとともに、実績報告から把握できない指標の把握に要する労力等も確認した。
- また、別途補足調査として、活動組織に対して多面版SDGsローカル指標の活用方法等について聞き取るとともに、大学生が本交付金による地域の共同活動がSDGsへ貢献していることを知った際に同活動に関心を持つかどうか等を聞き取った。

試行調査等の概要

試行調査(市)

- ・ 調査対象：X市、Y市
- ・ 調査形式：アンケート調査票を配布
- ・ 調査内容：①多面版SDGsローカル指標や活動量評価（県＋市）の内容を確認頂き、活用方法等についての評価を確認。
②実績報告から把握できない指標の把握に要する労力等を確認。

補足調査(活動組織)

- ・ 調査対象：4組織（両市から各2組織）の代表
- ・ 調査形式：アンケート調査票を配布
- ・ 調査内容：多面版SDGsローカル指標の内容を確認頂き、活用方法等についての評価を確認。

補足調査(大学生)

- ・ 調査対象：大学生（2大学）
- ・ 調査形式：WEBアンケート調査
- ・ 調査内容：地域の共同活動がSDGsへ貢献していることを知った際に共同活動に関心を持つかどうか等を確認。

(1) 試行調査(市)

- 2市に対して試行調査を実施した。(X市、Y市)
- はじめに、多面版SDGsローカル指標がどのようなものか理解していただくため、昨年度に大崎市で実施した試行調査と同様の整理を行った。その際、実績報告(様式2-4)から把握できる指標は予め事務局で記入した上で、実績報告から把握できない指標(例：環境支払や小水力発電に取り組む組織数など)は情報提供頂いた。

図 昨年度同様の試行調査 Y市の事例(一部抜粋)

I・資源と環境	I. 資源と環境 地域資源と農村環境の保全等への貢献				Y市 (活動例)			
	目標	ターゲット (達成目標)	本交付金の活動 指標	Y市の活動	目標	ターゲット (達成目標)	本交付金の活動 指標	Y市の活動
I・資源と環境	6 きれいな水	【6.3】汚染を減らす、ゴミが捨てられないようにする、有害な化学物質が流れ込むことを最低限にする、処理しきれないまま排水を半分に減らす、世界中で水の安全な再利用を大きく増やすなどの取組によって、水質を改善する。	水質保全(ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。 ◆水質保全(移動式の土砂流出対策)に取り組む組織数(様式2-4) ◆水質保全(その他:水質保全等を考慮した施設の適正管理、循環かんがいの実施等)に取り組む組織数(様式2-4) ◆景観形成等、施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組む組織数(様式2-4) ◆本交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組む組織数 ※宇都宮市のR2環境保全支払実績は13組織	(事例)クリーン作戦の取組 該当なし 該当なし 32組織	6 きれいな水	地域における水質を保全しています。	◆水質保全(移動式の土砂流出対策)に取り組む組織数(様式2-4) ◆水質保全(その他:水質保全等を考慮した施設の適正管理、循環かんがいの実施等)に取り組む組織数(様式2-4) ◆景観形成等、施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組む組織数(様式2-4) ◆本交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組む組織数 ※宇都宮市のR2環境保全支払実績は13組織	(事例)クリーン作戦の取組 該当なし 該当なし 32組織
	13 気候変動に脅かされる生態系	【13.1】気候に関する災害や、自然災害が起きたときに、対応したり立ち直ったりできるような力をすべての国でそなえる。 【13.3】気候変動が起きるスピードを遅くする。気候変動の影響に備えたり、影響を減らすための、早くから警戒するための、教育や啓発を、より良いものにし、人や組織の能力を高める。	災害に対する強靱性、対応力を強化する。 ◆農地維持活動に取り組む組織数(様式2-4) ◆農地維持活動(農地維持活動)に取り組む組織数(様式2-4) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆推進活動(地域住民による推進活動)に取り組む組織数(様式2-4) ◆増進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため(下流域と上流域との間の情報交換会の実施等)により、連携を回っている組織数(様式2-4)	該当なし 61組織 該当なし 該当なし 該当なし 2組織	13 気候変動に脅かされる生態系	地域における生物多様性を保全しています。	◆農地維持活動に取り組む組織数(様式2-4) ◆農地維持活動(農地維持活動)に取り組む組織数(様式2-4) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆推進活動(地域住民による推進活動)に取り組む組織数(様式2-4) ◆増進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため(下流域と上流域との間の情報交換会の実施等)により、連携を回っている組織数(様式2-4)	◆農地維持活動に取り組む組織数(様式2-4) ◆農地維持活動(農地維持活動)に取り組む組織数(様式2-4) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆推進活動(地域住民による推進活動)に取り組む組織数(様式2-4) ◆増進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため(下流域と上流域との間の情報交換会の実施等)により、連携を回っている組織数(様式2-4)
	13 気候変動に脅かされる生態系	【13.3】気候変動が起きるスピードを遅くする。気候変動の影響に備えたり、影響を減らすための、早くから警戒するための、教育や啓発を、より良いものにし、人や組織の能力を高める。	災害時における応急体制の整備、水田やため池の水田貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。 ◆増進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため(下流域と上流域との間の情報交換会の実施等)により、連携を回っている組織数(様式2-4)	該当なし 2組織	13 気候変動に脅かされる生態系	地域における生物多様性を保全しています。	◆農地維持活動に取り組む組織数(様式2-4) ◆農地維持活動(農地維持活動)に取り組む組織数(様式2-4) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆推進活動(地域住民による推進活動)に取り組む組織数(様式2-4) ◆増進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため(下流域と上流域との間の情報交換会の実施等)により、連携を回っている組織数(様式2-4)	◆農地維持活動に取り組む組織数(様式2-4) ◆農地維持活動(農地維持活動)に取り組む組織数(様式2-4) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆推進活動(地域住民による推進活動)に取り組む組織数(様式2-4) ◆増進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している)ため(下流域と上流域との間の情報交換会の実施等)により、連携を回っている組織数(様式2-4)
II・社会	II. 社会 農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献				Y市 (活動例)			
	目標	ターゲット (達成目標)	本交付金の活動 指標	Y市の活動	目標	ターゲット (達成目標)	本交付金の活動 指標	Y市の活動
II・社会	3 健康な社会	【3.4】2030年までに、予防や治療をすませ、感染症以外の病気や怪我で早く命を失う割合を3分の1減らす。人の健康への対策や福祉もすすめる。	地域資源の有するやすらぎ教育の場としての活用を図る。 ◆増進活動(やすらぎ・福祉及び教育機能の活用)に取り組む組織数(様式2-4)	(事例)農福連携の取組 2組織	3 健康な社会	やすらぎや福祉の機会を提供します。	◆増進活動(やすらぎ・福祉及び教育機能の活用)に取り組む組織数(様式2-4)	(事例)農福連携の取組 2組織
	4 質の高い教育をみんなに	【4.7】教育を受けるすべての人が、持続可能な社会をつくるために必要な知識や技術を身につけることができる。そのために、例えば、持続可能な社会をつくるための教育や、持続可能な生活の仕方、人権や男女の平等、平和の力を身につけること、世界市民としての意識、様々な文化の尊重などを理解できる教育を施す。	持続可能な地域づくりに必要な知識や技術について、地域住民等の理解を深めるための啓発・普及を図る。 ◆農村環境保全活動に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等の理解を深めるための啓発・普及活動を(年度実施)※「生物の生息状況の把握」～「地域資源の活用・資源循環のための活動」までのいずれかに取り組む組織数	(事例)地元小学校のホタル学習支援の取組 41組織	4 質の高い教育をみんなに	地域内外の人に質の高い教育、生涯学習の機会を提供します。 ◆地元小学校のホタル学習支援 ⇒ホタル生息地を保全し、幼虫を育て放流する活動を実施。	◆農村環境保全活動に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等の理解を深めるための啓発・普及活動を(年度実施)※「生物の生息状況の把握」～「地域資源の活用・資源循環のための活動」までのいずれかに取り組む組織数	(事例)地元小学校のホタル学習支援の取組 41組織
	5 性別に平等	【5.5】政治や経済や社会のなかで、何かに決めるときに、女性も男性と同じように参加したり、リーダーになったりできるようにする。	活動組織の役員や活動に参加する女性の割合を増加させる。 ◆女性役員がいる活動組織数 ※今回は、「女性会」が参加している組織数で代替	15組織	5 性別に平等	住み続けられる地域をつくれます。 ◆子どもたちを支援 ⇒「子供たちに農村文化をみせてあげたい」という思いのもと、子供たちと一緒に稲作をやり、五穀豊穣を願い、収穫祭を実施。農村文化に関心をもち、農村と都市との交流を促進。	◆活動に参加する女性の割合(効果等に関するアンケート)	◆子どもたちを支援 ⇒「子供たちに農村文化をみせてあげたい」という思いのもと、子供たちと一緒に稲作をやり、五穀豊穣を願い、収穫祭を実施。農村文化に関心をもち、農村と都市との交流を促進。
	7 持続可能なエネルギー	【7.2】エネルギーをつくる方法のうち、再生可能エネルギーを使う方法の割合を大きく増やす。	再生可能エネルギーに関する施設を保全する。 ◆資源循環(小水力発電施設の適正管理)を行っている組織数	該当なし	7 持続可能なエネルギー	住み続けられる地域をつくれます。 ◆子どもたちを支援 ⇒「子供たちに農村文化をみせてあげたい」という思いのもと、子供たちと一緒に稲作をやり、五穀豊穣を願い、収穫祭を実施。農村文化に関心をもち、農村と都市との交流を促進。	◆資源循環(小水力発電施設の適正管理)を行っている組織数	◆子どもたちを支援 ⇒「子供たちに農村文化をみせてあげたい」という思いのもと、子供たちと一緒に稲作をやり、五穀豊穣を願い、収穫祭を実施。農村文化に関心をもち、農村と都市との交流を促進。

実績報告から把握できない指標

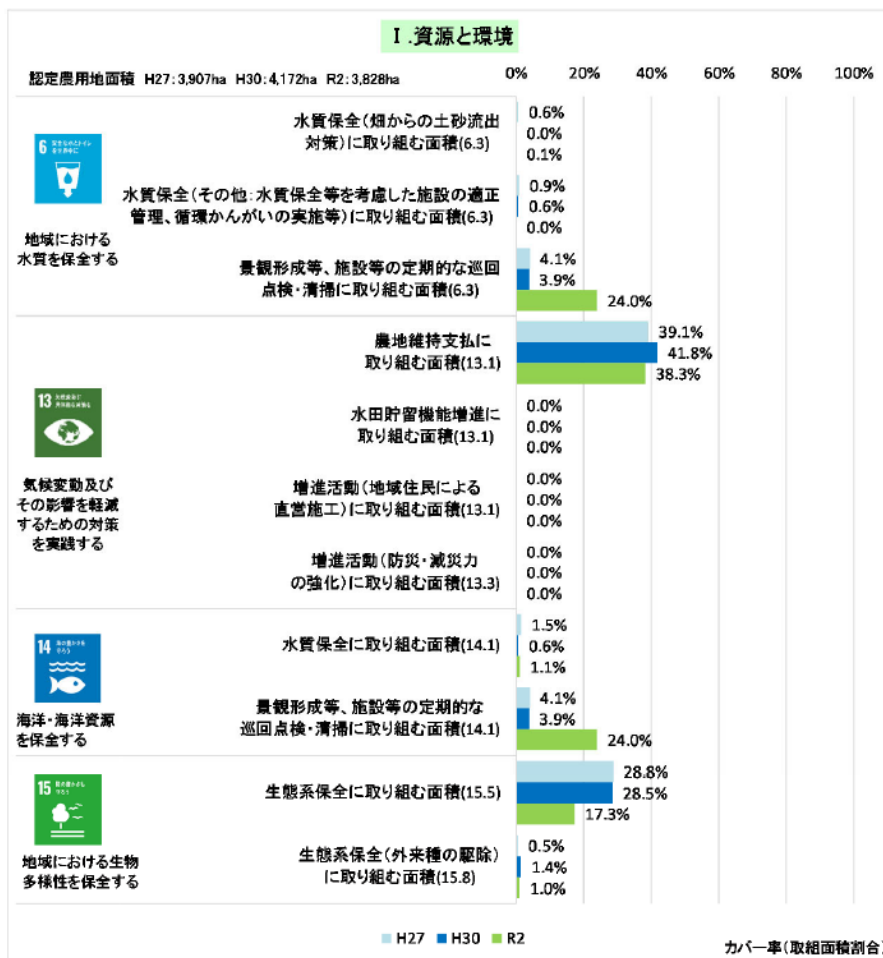
(1) 試行調査(市)

○ 次に、両市の取組状況を経年推移等の視点で評価した活動量評価（各指標値の推移や目標間のバランスと推移など）を提示して、その活用方法等を聞き取った。

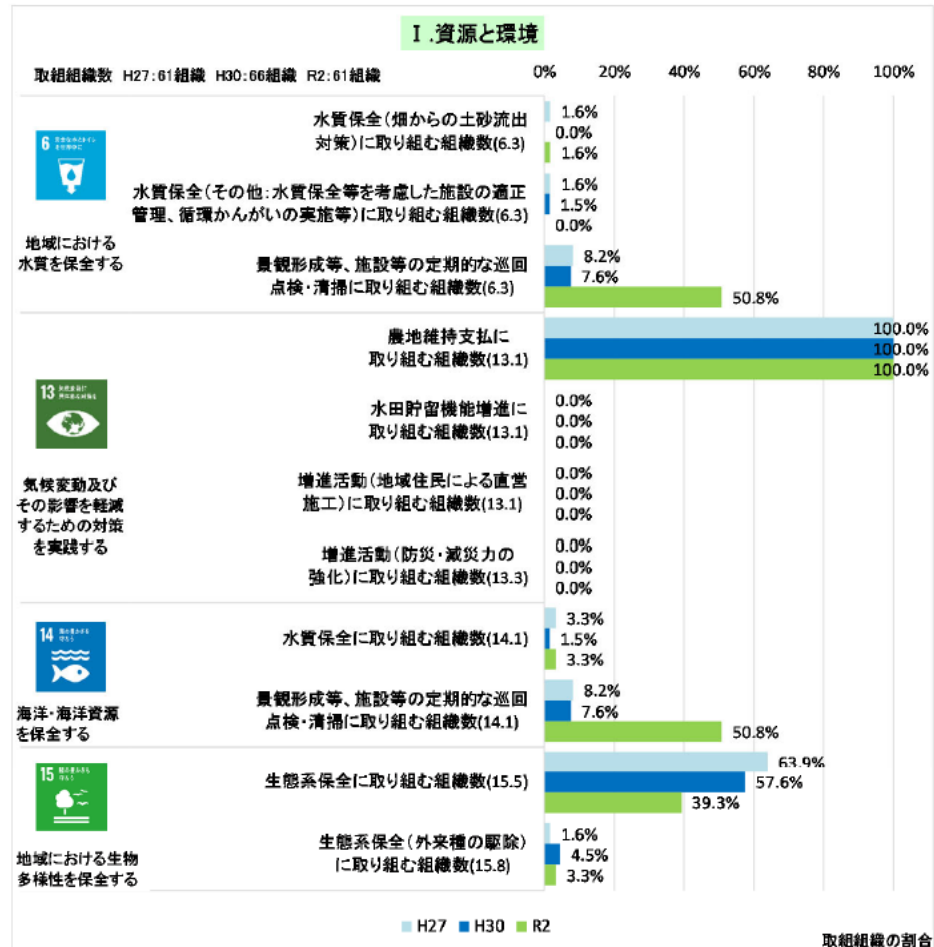
図 活動量評価 Y市の事例(一部抜粋)

各指標値の推移

カバー率(取組面積割合)



取組組織の割合



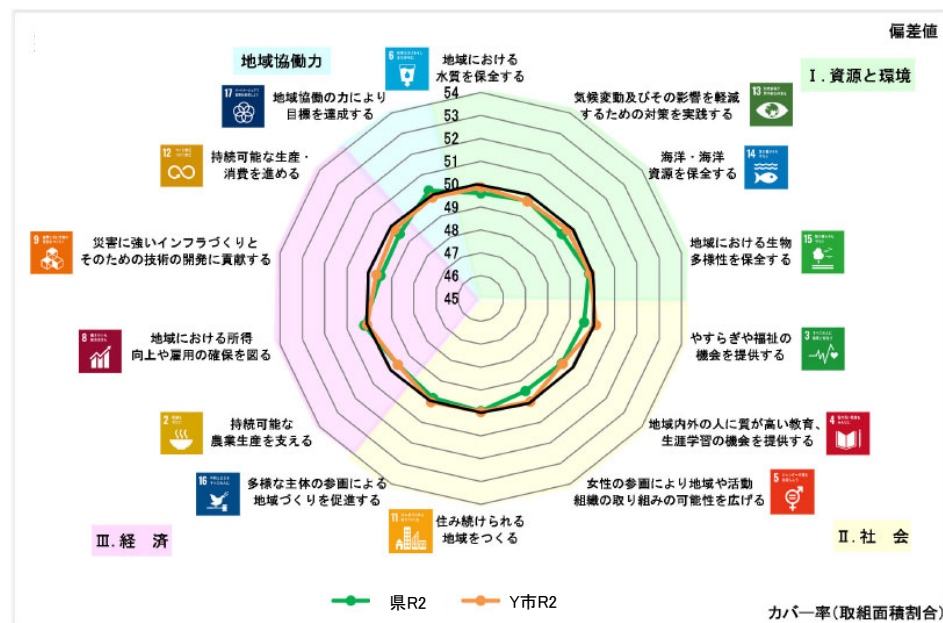
(1) 試行調査(市)

○ 目標間のバランスと推移については、県の活動量評価も提示して市の取組状況と比較できるようにした。

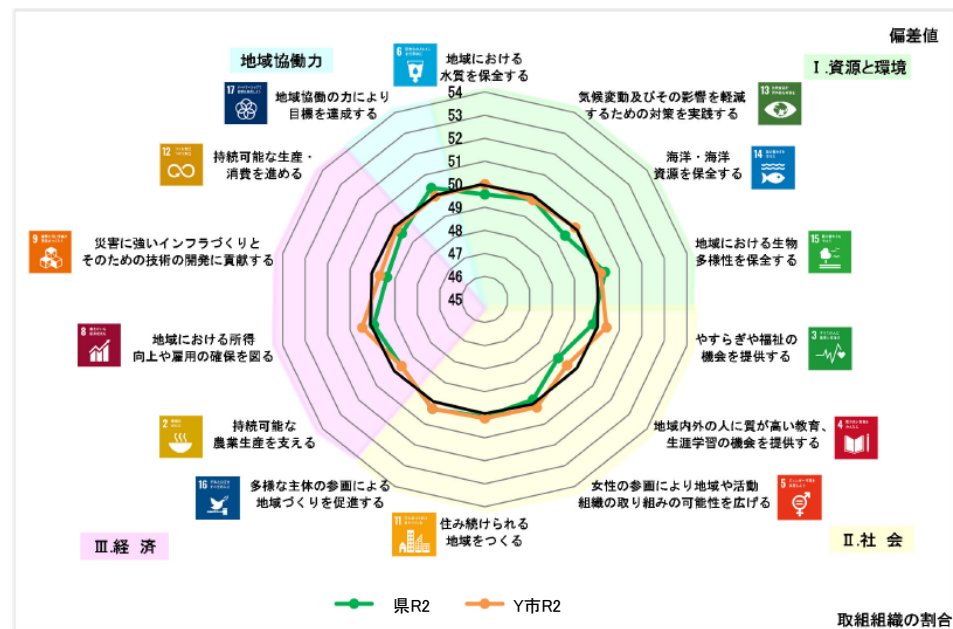
図 活動量評価 Y市の事例(一部抜粋)

目標間のバランスと推移(偏差値による比較:R2)

カバー率(取組面積割合)



取組組織の割合



(1) 試行調査(市)

【調査結果】

- 両市の担当者に多面版SDGsローカル指標や活動量評価等を確認いただき、活用方法等について聞き取った。
- その結果、本交付金の持続可能な開発目標（SDGs）への貢献に係る一連の整理内容について、両市の担当者とも理解は示しつつも、SDGsが地域に浸透していない、貢献度や達成度に明確な基準がないためどの程度貢献しているのか達成度合が見えるとよい等の回答があった。
- また、実績報告から把握できない指標の把握については、各種報告資料等の確認や活動組織への聞き取り等が必要であり、把握に時間を要する等の回答があった。

(2)補足調査(活動組織)

- 活動組織（両市から各2組織、計4組織）の代表に対して補足調査を実施した。
- 補足調査に当たっては、活動組織の方が簡単にSDGsへの貢献度をチェック可能で、自らの活動状況を振り返ることを期待し、多面的機能支払SDGsアイディアシート（以下、「アイディアシート」）を作成した。（チェックをつけることで目標毎の貢献度（実施状況）を確認できる様式）。
- 補足調査では、活動組織の方にアイディアシートを活用し、SDGsへの貢献が今後の活動を展開していく上で有効かどうかを聞き取った。

図 アイディアシート(一部抜粋)

多面的機能支払 SDGsアイディアシート(案)

SDGs達成に貢献する活動の実施状況を確認してみましょう

※のある項目は、実施報告を参照してチェック可能な内容

①実施している取り組みにチェックをつけてください

I 資源と環境(地域資源と農村環境の保全等への貢献)

【目標6】地域における水質を保全する。

6.3 水質保全、ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。

☐ 畑からの土砂流出対策に取り組んでいる(水質保全)※

☐ 水質保全等を考慮した施設の適正管理、管理かんがいの実施等に取り組んでいる(水質保全)※

☐ 施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組んでいる(景観形成・生活環境保全)※

☐ 本文交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組んでいる

☐ 下記の活動に取り組んでいる(チェックを付けたら、活動内容欄に具体的な活動内容を記載してください)

活動内容:

【目標13】気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する。

13.1 災害に対する強靱性、対応力を強化する。

☐ 排水路等の草刈りや泥上げ、点検等により異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる(農地維持)

☐ 異常気象後の見回りや応急措置により、異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる(農地維持)

☐ 水田の貯留機能向上活動に取り組んでいる(水田貯留機能増進)※

☐ 地域住民による直営施工に取り組んでいる(増進活動)※

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

13.3 災害時における応急体制の整備、水田やため池の雨水貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。

☐ 防災・減災力の強化に取り組んでいる(増進活動)※

☐ 地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進していくために下流域と上流域との間の情報交換会の実施等により、連携を図っている(啓発・普及活動)

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

【目標14】海洋・海洋資源を保全する。

14.1 海洋ゴミや富栄養化などによる海洋の汚染を防ぐ。

☐ 水質保全活動により、海洋ゴミや海の汚染の減少に取り組んでいる(水質保全)※

☐ 施設等の定期的な巡回点検・清掃により、海洋ゴミや海の汚染の減少に取り組んでいる(景観形成・生活環境保全)※

☐ 水資源農林の保全により、水質浄化や海の環境保全に取り組んでいる(水田貯留機能増進・地下水かん養)

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

【目標15】地域における生物多様性を保全する。

15.5 生物多様性保全のための取組を行う。

☐ 生態系保全活動に取り組んでいる(生態系保全)※

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

15.8 外来種の侵入を防止するとともに、外来種を駆除する取組を行う。

☐ 外来種の駆除に取り組んでいる(生態系保全)※

☐ 生物の生息状況の把握により、外来種の侵入を防止している(生態系保全)

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

地域協働力

【目標17】地域協働の力により目標を達成する。

17.6 国、地方公共団体、関係団体等が連携し、技術や情報の共有化を推進する。

☐ 都道府県、市町村や推進組織への情報提供、情報共有等を積極的に行っている

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

17.17 国、地方公共団体、関係団体、活動組織の連携体制を強化する。

☐ 都道府県、市町村や推進組織との連携を積極的に行っている

☐ 活動組織のNPO法人化により組織体制を強化している※

☐ 土地改良区と連携して活動を行っている(土地改良区が活動組織の構成員である)※

☐ 他の活動組織や団体と連携した活動を行っている

☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

②活動組織のSDGs達成に向けた活動の実施状況を確認してみましょう。

SDGs達成に貢献する活動の実施状況(チェックのついた活動数)

	I 資源と環境				II 社会				III 経済				地域協働力		
	目標6	目標13	目標14	目標15	目標4	目標5	目標7	目標11	目標16	目標2	目標8	目標9	目標12	目標17	
SDGsの達成へ貢献	2	4	0	2	0	1	2	1	3	1	2	0	1	3	2
	8				7				6				2		

③SDGsと活動組織の活動の関係について気づいたことをメモしてみてください。

④SDGsの達成への貢献について、あなたの活動組織のPRポイントを教えてください。

⑤今後の活動計画とSDGsについて記載してみましょう。

チェックすると自動で集計される

(2)補足調査(活動組織)

【調査結果】

- 活動組織の代表4名にアイディアシートを確認いただき活用方法について聞き取った。また、追加的に可能な範囲で活動組織の構成員（自治会3名、女性会3名、学校・PTA3名、農業団体1名）からも活用方法について聞き取った。
- その結果、アイディアシートについては、活動が思った以上にSDGsと密接に関係していると気づいた、今後はSDGsを意識しながら活動できるよう検討したいなどと、一定の評価を得た。
- 活動を展開していく上での有効性については、活動のマンネリ化を防ぐ一助になる、活動内容を再点検できるなど有効だと思う旨の回答を得たものの、半数以上から地域住民のSDGs自体の理解が不足しているとの回答を得た。
- また、アイディアシートの難易度については、代表3名からは簡単である旨回答を得たが、その他からは、活動が限定的でありどの内容に当てはまるのか分かりにくい、活動をSDGsと結びつけることが想像しにくいことなどから難しかった旨回答を得た。

(3)補足調査(大学生)

- SDGsについてよく知っている若い世代（大学生）に対して補足調査を実施した。
- 調査は2大学にご協力いただき、WEBアンケート形式で実施した。
- 冒頭、多面的機能支払交付金及び共同活動とは何かについて簡単に説明した上で、多面的機能を支えるために地域で共同活動が行われていることを知っていたかどうか質問した。

大学生向けアンケート概要(1/2)

1. はじめに

日本の農業・農村は、「食」を支えているだけでなく、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の様々な働きを持っています。このような様々な働きを「農業・農村の多面的機能」といい、日本国民の大切な“財産”です。

しかしながら、農村地域の高齢化、人口減少などで、地域の共同活動によって支えられている多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。

このため、農林水産省では、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るために、地域の共同活動に対する支援制度「多面的機能支払交付金」を実施しています。

属性

性別 男性 ☐、女性 ☐

学年 1年 ☐、2年 ☐、3年 ☐、4年 ☐、修士1年 ☐、修士2年 ☐

問1

多面的機能を支えるために地域の共同活動（農地法面の草刈りや水路の泥上げ等）が行われていることを知っていましたか？（1つ選択）

[①知っていた、 ②知らなかった]

2. 多面的機能を支える共同活動（以下、「地域の共同活動」）の内容

多面的機能支払交付金により、以下のような地域の共同活動を支援しています。

地域の共同活動

- ・ 農地法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持等の基礎的保全活動
- ・ 水路、農道、ため池の軽微な補修
- ・ 景観形成や生態系保全などの農村環境保全活動
- ・ 古くなった施設の長寿命化のための活動 等



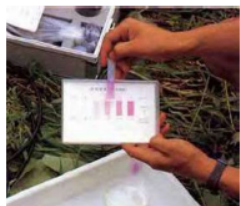
農地法面の草刈り



水路の泥上げ



景観形成



水質モニタリング



水路のひび割れ補修



外来種駆除

(3)補足調査(大学生)

- 次に、地域の共同活動がSDGsと繋がっている旨説明した上で、地域の共同活動がSDGsの目標達成に貢献すると思うかどうか、共同活動に興味があるかどうか等について聞き取った。
- 最後に、情報発信コンテンツとして何が効果的かを聞き取った。

大学生向けアンケート概要(2/2)

3. 地域の共同活動によるSDGsへの貢献

- (1) 多面的機能支払交付金が支援する地域の共同活動は、SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に貢献しています。
- (2) 例えば、「目標6：地域における水質を保全する」については、「水質保全、ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する」活動を行っており、具体的には、水質保全（畑からの土砂流出対策、循環かんがいの実施など）に取り組んでいます（下表参照）。
- (3) このように、多面的機能支払交付金が支援する地域の共同活動という農村地域における小さな活動は、世界が目指すSDGsと繋がっています。

表 SDGsへ貢献する地域の共同活動の内容（一部抜粋）

	【目標6】地域における水質を保全する。 6.3 水質保全、ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。 - 畑からの土砂流出防止に取組んでいる《水質保全》※ - 水質保全等を実施した施設が適正管理、循環かんがいの実施等に取り組んでいる《水質保全》※ - 施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組んでいる《農林形成・生活環境保全》※ - 本交付金と合わせて農林形成推進基金交付金に取組んでいる - 下記の活動に取り組んでいる《チェックを付けたら、活動内容欄に具体的な活動内容を記載してください》
	【目標13】気候変動及びその影響を軽減するための応答を促進する。 13.1 気候に対する脆弱性、対応力を強化する。 - 排水設備の基幹（排水）と農地等により農地災害時の被害軽減に取り組んでいる《農地維持》※ - 農地災害時の応急対応（排水）と農地等により、農地災害時の被害軽減に取り組んでいる《農地維持》※ - 水田の排水設備向上活動に取り組んでいる《水田排水設備改善》※ - 地域住民による農業用水に取り組んでいる《農業用水》※ - 下記の活動に取り組んでいる
	【目標14】海洋・海洋資源を保全する。 14.1 海洋生物資源の持続可能な開発に貢献する。 - 水質保全活動により、海洋生物資源の持続可能な開発に取り組んでいる《水質保全》※ - 施設等の定期的な巡回点検・清掃により、海洋生物資源の持続可能な開発に取り組んでいる《農林形成・生活環境保全》※ - 水質汚染の防止により、水質汚染や海の環境保全に取り組んでいる《水田排水設備改善・地下水かん養》※ - 下記の活動に取り組んでいる
	【目標15】地域における生物多様性を保全する。 15.5 生物多様性保全のための取組を行う。 - 水質保全活動に取り組んでいる《水質保全》※ - 下記の活動に取り組んでいる 15.8 外来種の侵入を防止するとともに、外来種を駆除する取組を行う。 - 外来種の駆除に取り組んでいる《水質保全》※ - 生物の生息地の整備により、外来種の侵入を防止している《水質保全》※ - 下記の活動に取り組んでいる

問2 地域の共同活動がSDGsの目標達成に貢献すると思いますか？
(1つ選択)

[①思う、 ②思わない]

問3-1 このような地域の共同活動に興味はありますか？(1つ選択)

[①興味がある、 ②興味はない]

問3-2 問3-1で「①興味がある」と回答された方にお尋ねします。市内において多くの地域の共同活動が展開されています。近隣でこのような活動が行われていますが、機会があれば活動に参加してみたいと思いますか？(1つ選択)

[①参加してみたい、 ②もう少し詳しい情報を知りたい、 ③参加してみたいと思わない]

問3-3 問3-2で「①参加してみたい」「②もう少し詳しい情報を知りたい」と回答された方にお尋ねします。
どういう点に興味を持ちましたか？(1つ選択)

[①地域の方と交流したい、 ②地域の環境について知りたい、
③SDGsに貢献する活動に取り組みたい、 ④その他]

また、どのような活動に参加してみたいか、どのような情報を知りたいかなどについて教えてください。(自由記載)

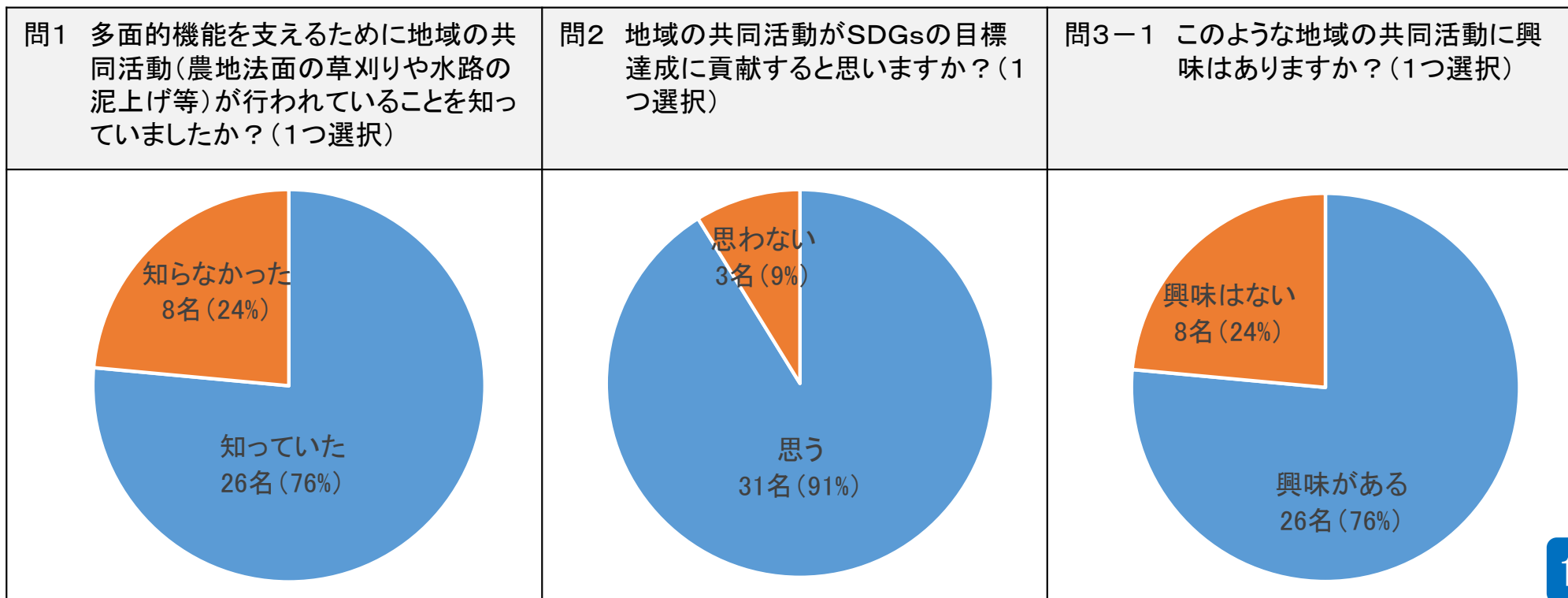
(3)補足調査(大学生)

【調査結果】

- 大学生34名からアンケート結果を回収した（回収率：5割程度）
- その結果、回答者のうち約8割が「地域の共同活動について知っていた」、約9割が「地域の共同活動がSDGsの目標達成に貢献すると思う」、約8割が「地域の共同活動について興味がある」と回答する結果となった。

図 大学生アンケート集計結果の概要(1/2)

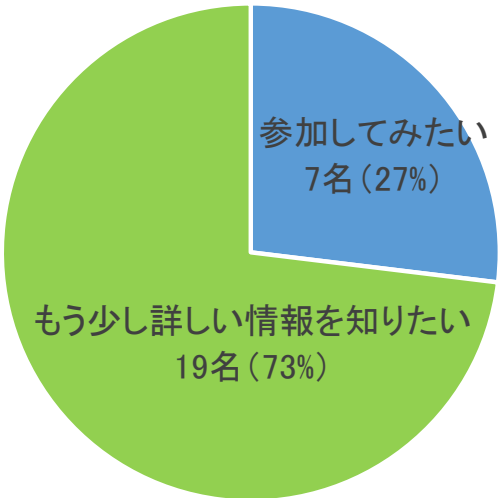
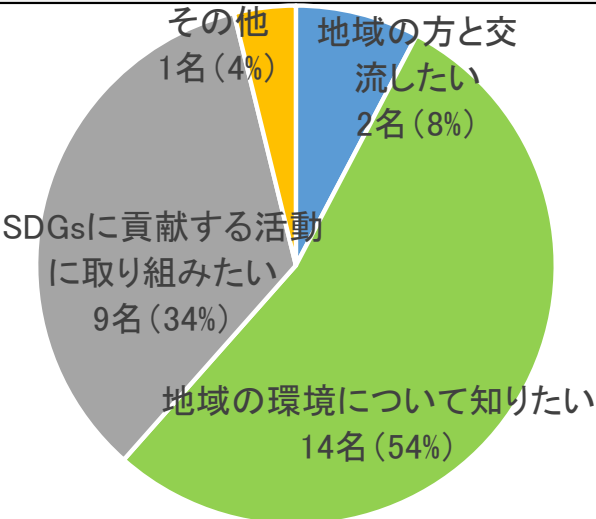
属性等	集計結果			
回答者数【アクセス数】(回収率)	34【66】(52%)			
性別	男性23名、女性11名			
学年	1年	8	4年	5
	2年	1	M1年	7
	3年	8	M2年	5



(2) 大学生を対象とした補足調査

- また、「地域の共同活動について興味がある」と回答した者全てが「参加してみたい」「もう少し詳しい情報がほしい」と回答する結果となった。
- さらに、「参加してみたい」「もう少し詳しい情報がほしい」と回答した者にどういう点に興味を持ったか質問したところ、「地域の環境について知りたい」「SDGsに貢献する活動に取り組みたい」の順に回答が多かった。
- 本調査結果から、地域の共同活動とSDGsへの貢献を結びつけることで、一定数の学生が地域の共同活動に興味を持つことが分かった。

図 大学生アンケート集計結果の概要(2/2)

問3-2 問3-1で「興味がある」と回答された方にお尋ねします。市内において多くの地域の共同活動が展開されています。近隣でこのような活動が行われていますが、機会があれば活動に参加してみたいと思いますか？（1つ選択）	問3-3 問3-2で「①参加してみたい」「②もう少し詳しい情報を知りたい」と回答された方にお尋ねします。どういう点に興味を持ちましたか？（1つ選択）
 ※参加してみたいと思わない 0名	
どういう活動に参加してみたいか、どういう情報を知りたいかなどについて教えてください。（自由回答：一部抜粋）	・異常気象（特に激化する水害）への対応について詳しく知りたい。 ・地域の景観を形成する水やごみ問題を解決する活動に参加してみたい。 ・地域の自然環境保護や外来種駆除などの活動への参加やそれに関する情報が知りたい。 ・市でSDGsの目標達成のために具体的にどのようなことを実施しているのか知りたい。 ・地域の問題についてそれぞれ学び、学科の授業の演習としてボランティア活動をしてみたい。 ・自然や子供たちと触れ合う活動に参加してみたい。 ・地域の共同体として農業水利施設の管理状況について研究しているので、実際の現場を一度見てみたい。

4 指標の把握方法

- 多面版SDGsローカル指標を活用して実績報告（様式2-4）から簡易的に取組状況を評価できることを確認できた。
- 一方、実績報告（様式2-4）からは把握することができない10の指標について、把握の方法、また、把握に要する労力を調査し、対応方針を検討する必要がある。
- 今回2市に対して行った試行調査においては、これらの指標は、予め把握しているものではないことから、活動組織への聞き取りが必要であるなどの理由により、把握は困難あるいは時間を要するとの回答であった。
- このため、今後、実績報告では把握できない指標の取り扱いや指標の改善について検討を進める必要があることが明らかとなった。

表 試行調査を踏まえた把握方法

目標	実績報告（様式2-4）から把握できない指標数（全体の指標数）		試行調査を踏まえた把握方法
		指標内容	
目標2	1(2)	本交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組む組織数	時間を要するものの、活動範囲の重複の有無を把握すれば把握可能。
目標6	1(4)		
目標5	2(2)	女性役員がいる活動組織数 活動に参加する女性の割合	時間を要するものの、活動組織からの聞き取り等を行えば把握可能。 一方、目標5における「活動に参加する女性の割合」は、活動毎に毎回記録が必要であり、活動組織における労力が大きいため、指標としては削除し、「女性会が参画している組織数」を追加する。
目標7	1(1)	資源循環（小水力発電施設の適正管理）を行っている組織数	
目標8	1(4)	地域住民以外の方の参加する活動を実施している組織数 景観形成等により、地域住民以外の方が来訪する資源を創出している組織数 都市と農村の交流、6次産業化が促進された組織の割合	
目標9	1(3)	大学、企業との連携を行っている組織割合	
目標11	1(6)	伝統的施設や農法の保全・実施に取り組む組織数	
目標13	1(5)	地域住民等との交流活動を実施している（地域における水田を利用した水田貯留機能増・地下水かん養を推進していくために下流域と上流域との間での情報交換会の実施等により、連携を図っている）組織数	
目標14	1(3)	水源かん養林の保全に取り組む組織数	
目標17	1(4)	地方公共団体、推進組織による指導・支援等の実施状況（市町村推進事業実施計画書）	市町村推進事業実施計画書の内容を確認して記載する必要。
合計	10	（目標2と目標6は重複しているため1つとしてカウント）	

※ 実績報告から全て把握できる目標…目標3、目標4、目標12、目標15、目標16

5 まとめ

1. 多面版SDGsローカル指標の活用方法

- 2市への試行調査結果から、多面版SDGsローカル指標を用いた活動量評価に係る整理内容について、担当者として整理内容に理解は示しつつもSDGsが地域に浸透していない、どの程度貢献しているのか、達成度合が見えるとよい等の回答があった。本交付金の活動がSDGsへの貢献が平均的な行政においては、今回の試行調査と同様の意向を示す可能性が高いと予想される。
- 活動組織への補足調査結果から、アイディアシートについて、地域住民の共同活動がSDGsへ貢献しているということを認識できる等の評価があったものの、地域のSDGs自体への認知度が低い、活動とSDGsを結びつけることが想像しにくい等の評価も得られた。
- 一方、大学生への補足調査結果から、地域の共同活動がSDGsへの貢献することをPRすることは、一定数の学生が地域の共同活動に興味を持つきっかけとなることが分かった。

2. 今後の進め方(案)

- 今回の試行調査等の結果から、多面版SDGsローカル指標を用いた活動量評価等については、一律に普及していくよりも、行政や活動組織の需要に合わせて段階的に活用を展開していくことが適切と考えられる。
- このため、まずはHP掲載やSNSを通じて情報発信を進め、担当者会議等を通じて現場の意見を丁寧に聞きながら、アイディアシートの活用も含め、普及方法を検討していく。
- 若い世代の関心に応える工夫として、例えば、地域の共同活動がSDGsへ貢献していること等について、SNSを活用すること等も検討していく。